

週刊 タバコの正体

皆さん、動脈硬化という言葉を知っていますか。下図にあるように血管が狭くなっていく状態を言います。その原因は高血圧や糖尿病などによるのですが、喫煙も動脈硬化の要因となっています。動脈



動脈硬化促進因子

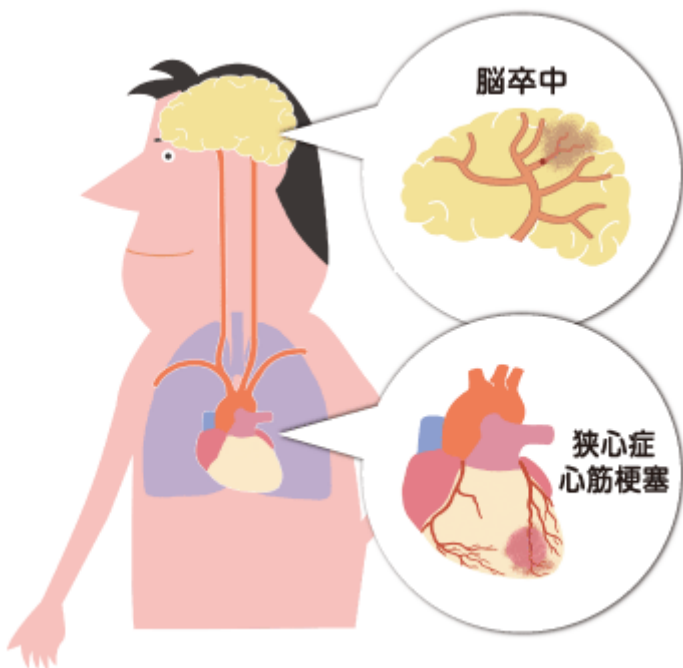
高血圧・糖尿病・脂質異常・喫煙・肥満
慢性腎臓病・睡眠時無呼吸症候群・加齢など

阪和記念病院ホームページから

硬化になると、血管が細くなるのと同じなので血液の流れが悪くなります。すると体調にどんな影響がでてくるか想像できますか。

流れが悪くなった分の血液を送ろうとして、心臓の負担が大きくなったり、体内の臓器や組織の機能が低下します。さらに動脈自体が硬くなるので血管が破れやすくなるのです。

そして、動脈硬化が進行し脳の血管が詰まったり破れて出血すると脳卒中^{のうそうちゅう}、心臓を包む動脈が詰まって血液が止まってしまおうと心筋梗塞^{しんきんこうそく}となってしまう。ちなみに心臓の動脈が詰まって少ししか血液が流れなくなるのが狭心症^{きょうしんしょう}という病気です。



脳卒中や心筋梗塞は命に関わる緊急事態です。発症すれば一秒でも早く治療や応急措置に当たらなければ、命を落としたり大きな後遺症が残る可能性が大きくなるのです。

喫煙が血管にダメージを与える事は、医療関係者には広く知られていますし、じつは、タバコのパッケージには、

『喫煙は、あなたにとって脳卒中、心筋梗塞の危険性を高めます。』

と印刷されています。

こんな危険があるのに、あえてタバコを吸い始めることはないですよ。

武田薬品工業株式会社「心臓や脳の病気を防ぐには・・・」サイトから